ASAHI GAWASOU DAYORI

利用者や家族らが楽しいひとときを過ごした「旭川荘子どもまつり」(5面に関連記事)

CONTENTS

P2 旭川敬老園で第50回開園記念行事
P3 車いすの会が記念誌製作
P5 POSレジ講習会開催
P6 県立大生が吉備ワーク見学

旭川荘だより

vol. 239
2018.06.01 発行

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

キャンバスの会理事長の楠元洋子さんを招いて開催された講演会(3面に関連記事)

上海市黄浦区の医師代表団が旭川荘を訪問

上海市黄浦区の代表団が5月15日から3日間、旭川荘を訪れ、高齢者の医療・介護に関する研修を受講しました。

黄浦区は上海市の中でも旭川荘と交流が深い自治体で、平成8年から20年以上にわたり毎年のように医師や看護師の代表団が訪れて、研修を受けています。

今回の代表団は、黄浦区精神衛生センターの周宝国院長をはじめ、地域病院の院長やリハビリ担当医、総合医ら6人。上海市では高齢化が急速に進行する中、今年から介護保険制度が試行的に実施されたことから、日本の制度や施設運営への関心が一層高まっています。

祇園地区では、末光茂理事長が医療福祉のあり方について講義したほか、敬老園や療育・医療センターの見学会も行われ、敬老園における医師の役割や療育・医療センターとの連携に関心が集まりました。

結びの杜では、認知症グループホームでのケア方法や、介護・看護記録の整備方法に熱心な質問が飛び交いました。

末光理事長らと懇談する黄浦区代表団

研修は荘外でも行われ、一行は川崎医科大学総合医療センターで最新の診療体制や機器を見学したほか、慈圭病院では全国的にも珍しい個室ユニット式の認知症病棟を視察しました。

研修を終えた代表団の周団長は、「川﨑先生や江草先生のすばらしい精神が今も受け継がれていることに感銘を受けた。今後も黄浦区からの研修を受け入れて、日本の最新事情を教えてほしい」と語っていました。

旭川敬老園で第50回開園記念行事

旭川敬老園で5月12日、第50回開園記念行事が行われ、利用者がくす玉を割って50年の節目を祝いました。

敬老園は昭和43年5月、岡山県下2番目の特別養護老人ホームとして定員50人でスタートしました。同46年には定員を現在と同じ110人に増員。建物の新築により平成17年には全館個室のユニットケアを開始。利用者の生き方や個性を尊重し、主体的な生活を支援する介護サービスを提供しています。

くす玉を割る利用者　皆で50年の節目を祝った

この日、地域交流ホールであった行事には利用者と家族ら約100人が参加。利用者の暮らしの様子を撮影した写真をスライドショーで紹介した後、くす玉が登場。百歳を超えた「ご長寿」7人が力を合わせて紐を引くと、見事にくす玉が割れ会場から大きな拍手が送られました。

敬老園では現在、開園から50年の歩みを紹介する記念誌を制作中で、9月の敬老の日の式典までに完成する予定です。

キャンバスの会・楠元理事長が講演
エコール・トモニー

第15回エコール・トモニー講演会が4月20日、旭川敬老園地域交流ホールで開かれ、宮崎県都城市で障害のある人たちが働く弁当配食、リネンサービスなどの事業を展開する社会福祉法人キャンバスの会理事長の楠元洋子さんが「おもいを形に」と題して講演しました。

楠元さんは身体に重い障害のある次女が成人後も通える場をつくろうと、養護学校(現在の支援学校)の母親らに呼びかけ、平成16年にNPO法人キャンバスの会を立ち上げました。平成19年には社会福祉法人を設立。行政や企業などと連携しながら、障害のある子どもたちが地域で安心して生活できる環境を自分たちの手で作り上げてきました。

「夢をみんなが実践してくれる。喜びをいただけるだけで幸せ」と語る楠元さん

講演の中で楠元さんは、活動の出発点となった紙おむつの販売に言及。「メーカーから商品を仕入れ、娘と犬を車に乗せて各地を配達に回った。資格もなく、福祉制度も知らなかったが、子どもらのために自分たちの思うものを作ろうと一生懸命だった」と振り返りました。

障害者雇用にもいち早く取り組み、配食サービスや野菜の水耕栽培、レンタルクリーニング、農業法人との連携など次々と事業を拡大。経営者としての心構えを「障害のある人たちが夢を持てるよう賃金・工賃を増やすこと、それが自分たちに返ってくる。『障害者施設だからこんなもの…』ではなく、コストを意識し、企業と同じ競争、努力をしていかないといけない」と表現しました。

また、就労支援事業所が顧客の支持を得るには「ニーズを分析し、地域資源に目を向けながら、よそが真似できないような仕事を探す必要がある」と指摘。「キャンバスの会を福祉法人だと知らない人も多い。まちの弁当屋さん、洗濯屋さんと呼ばれるのを誇りに思う」と語りました。

車いすの会　45周年記念誌製作
竜ノ口寮の建設など支援

昭和47年に発足し、竜ノ口寮の建設を資金面から支えた「重度身体障害児者を励ます車いすの会」(会長:横山洋・横山石油会長)はこのほど、記念誌「重度身体障害児者と歩んだ45年」を製作しました。

車いすの会は、旭川療育園の退園者や家族らの「重度障害者のための入所施設を」との願いを受け、当時の堀川龍一園長が自ら世話人となって会を立ち上げました。会長に当時の横山石油社長・横山己代吉氏、理事長には堀川園長が就き、400人を超える会員でスタート。会員からの寄付やチャリティーバザーの収益、岡山県内のゴルフ場から県福祉事業団を通じて同会に寄せられるゴルフ基金などは、竜ノ口寮をはじめ荘内の身体障害者施設の整備や利用者のレクリエーションなどに活用されてきました。

同会の経済的基盤となっていた県福祉事業団が平成28年度で解散したことから、これまでの活動をまとめて45周年記念誌を作製することとなり、竜ノ口寮などの関係者が中心となって編集作業を進めてきました。

車いすの会の45年の歩みを紹介する記念誌

記念誌には竜ノ口寮の建設工事の様子や落成式、チャリティーバザーの風景などの写真とともに、会員募集の案内、会報、バザーのちらしなどの資料写真を収録。支援の実績を関連行事とともに年代を追って紹介しています。

A4判、オールカラー、28ページで300部製作。問い合わせは竜ノ口寮(086-275-3216)まで。

倒木の危険のある樹木を伐採
祇園地区

創設以来たくさんの樹木を植栽してきた旭川荘祇園地区で、倒木の恐れのある樹木の伐採作業が進められています。今年1月には専門の樹木医に敷地内にある木の健康状態を“診察”してもらい、倒木などの危険性をチェック。第1期の伐採作業が5月7日から、愛育寮で行われました。

きっかけは昨年9月、強風などにより古木が相次いで倒れたことです。1件目は愛育寮の活動棟横にあったギンドロでした。早朝で皆が寝ている時間だったことと、建物の無い方向に倒れたため、幸い施設や利用者に被害はありませんでした。2件目は竜ノ口寮のスラッシュマツ。幹の途中から折れて電線にかかり、電信柱が傾く被害が出ました。

そこで環境福祉委員会が専門業者に現状調査を依頼。2件以外にも倒木の危険性が高いものが12本あることがわかりました。調査を行った樹木医で、造園会社を経営する小林智さんは「樹齢60～70年ほどの木が多く、建物の建て替えや道路整備の影響で木の根がだいぶ傷ついている。根がしっかり張れていないので、倒木のリスクは高い」と警告。危険度の高い木7本が集中する愛育寮周辺から伐採に着手することになりました。

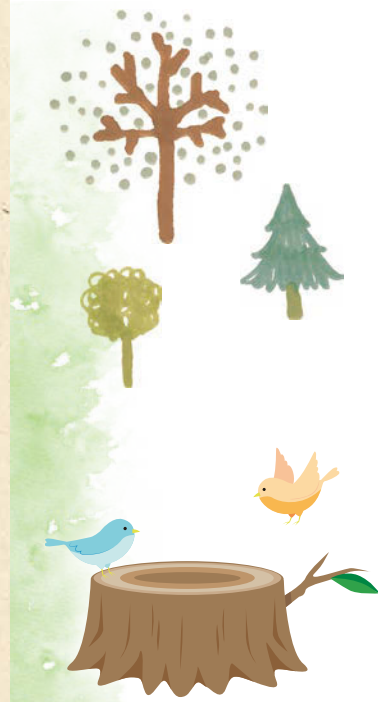
7本のうちで最も倒木の危険があると診断されたのは愛育寮女性棟の前にある同寮のシンボルツリー「ユリノキ」。小林さんによると「中がほとんど腐っていて、幹の外側1/4しか生きていない」とのことです。

伐採には大型のクレーン車を使用。アームの先のゴンドラから作業員が木の上に乗り移ると、てっぺんの方からチェーンソーで枝を切り、ゴンドラにくくり、吊り下げて地上に降ろします。職人たちの流れるような作業によって、ユリノキはあっという間に小さくなっていきました。ユリノキの伐採について、小林由典寮長は「シンボルツリーがなくなるのは寂しいが、たびたび木の枝が落ちてきて危険だった。安全を優先するためには仕方が無い」と話します。

第1期作業を前に5月1日、愛育寮前で安全祈願祭が行われ、関係者が参列した

大型クレーンで木を広い場所へ運ぶ作業時の高さは建物4階に相当

7本の伐採は1週間かけて行われ、13日に第1期作業が完了しました。今後、第2期（吉備地域生活ホーム、総合研究所の計3本）、第3期（厚生専門学院の2本）と作業を行い、台風シーズンまでに対象木の伐採を終える予定です。



愛育寮前の伐採対象木5本

大人の腰の高さで伐採

POSレジの使い方講習会開催
写真・作品展で初導入

旭川荘で「ものづくり」に取り組む13施設などでつくる「ぎおんの杜会議」（旧製品販売促進プロジェクトチーム）は5月21日、6月の写真・作品展（5～8日）で初めて導入するPOSレジの使い方講習会を吉備ワークホームで開催しました。

メーカーの担当者（左）からPOSレジの使い方を学ぶ参加者

POSは「point of sales」の略で、POSレジは販売の際に金銭をやりとりした時点の情報を管理するシステムを搭載したレジスターのこと。製品のバーコード（JANコード）をスキャナーで読み取り、単価などの情報を自動で記録するため、入力ミスを防ぐとともに「いつ、どの製品が、いくつ売れたか」といった売れ行き動向を把握することが可能です。

旭川荘の製品販売では、これまで係員が電卓を使って計算していましたが、お客様を待たせたり、集計に時間がかかるので、同会議でレジの導入を求める声が上がっていました。こうした声にトモニーが協力。本年度から同社が購入した機器をイベント等の際に借用できることになり、写真・作品展での使用に向け、吉備ワークが管理者となってJANコード登録・バーコードシール作製などの準備を進めてきました。

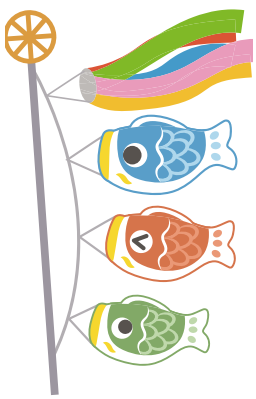
講習会には各施設から18人が参加。メーカーの担当者が実機を使いながら、モードスイッチの切り替えや精算の方法、同一製品を複数販売した場合のキー操作などについて説明しました。参加者はメモを取りながら「スキャナーで記録したデータを取り消す方法は」「レシート発行後に返品された場合、どのように修正するのか」などと熱心に質問していました。

このほか28日に竜ノ口寮で行われた写真・作品展実行委員会でも、吉備ワークの担当者を講師に2回目の講習会を実施。参加者が実際の販売をイメージしながら、レジの基本操作を確認しました。

子どもまつり晴天の中盛大に開催
利用者と家族の笑顔あふれる

「第35回旭川荘子どもまつり」が4月28日、祇園地区結びの園周辺で開催されました。初夏を思わせる陽気となった会場では利用者や家族、地域の子供たちが集まり、活気のある声が飛び交っていました。

実行委員長の出口隆一旭川学園長が「ゴールデンウィーク初日を皆で楽しみましょう」とあいさつし、岡山大学応援団総部吹奏楽団のファンファーレで祭りが始まりました。「鯉のぼり」の曲に合わせて乳児院の子どもたちが職員と一緒に鯉のぼりを掲揚。真鯉や緋鯉が澄んだ青空を背景に風に乗り気持ちよさそうに泳ぎ始めました。



ステージでは吹奏楽団が「ダイヤモンド」「風になりたい」などの演奏を披露。続いて旭川学園ダンスクラブやわかくさ学園、療育園のうらじゃ踊りなど元気いっぱいのダンス発表があり、会場を沸かせました。厚生専門学院児童福祉学科の学生による発表では「アンパンマンのさんさん体操」や「エビカニックス」のダンスに旭川学園の子どもたちが飛び入り参加。利用者も観客も一緒に体を動かし楽しみました。

厚生専門学院児童福祉学科の学生さんと一緒に踊る旭川学園の子どもたち

ステージの周りに設けられたゲームと遊びのコーナーでは、輪投げやシャボン玉を夢中で楽しむ利用者や子どもたちでにぎわっていました。トモニーの模擬店も大好評で、ジュースやアイスを買い求める人の列ができていました。

近所に住む親子は「にぎやかな音楽と歓声に誘われて来た。最近は“屋根より高い鯉のぼり”がないので、見られてよかった」と笑顔で話してくれました。

木をテーマに「間プロジェクト」県立大生らが吉備ワーク見学

岡山県立大学デザイン学部の学生らが5月10日、吉備ワークホームを訪れ、利用者が働く製品制作の現場を見学しました。

旭川荘では平成26年度から同学部の南川茂樹准教授らと「間プロジェクト」(★注)で交流。本年度は吉備ワークで加工する「りんごの枝」や「桜の枝」の新たな活用法について、南川准教授が担当する専門分野の授業の中で検討を進めています。

南川准教授と5人の学生はこの日、職員の案内でアトリエ夢工房内の作業部屋を巡り、小枝をサンドペーパーで磨く作業の様子やレーザー加工機などを確認。学生たちは展示棚に並ぶ「地図パズル」や「りんごhanko」、桜の枝にマスコットを載せた「チェリープレート」などの木製品にも興味を示し、職員に「製品のデザインはだれが考えるのか」「(利用者は)自分のやりたい作業を選べるのか」などと質問していました。

見学に参加した西尾藍子さん＝同学部3年＝は「セラミック粘土でマスコットを仕上げる細かな作業に驚いた。利用者さんが携われるような木工のアイデアを考えたい」と話していました。南川准教授は「見学で学んだことを持ち帰り、8月ごろには成果をまとめて報告したい」と話しています。

利用者の作業の様子を見学する県立大学の学生ら

★注:間プロジェクト
県立大学と旭川荘の「間」で進める「福祉現場におけるデザインの効果と新たな価値の創造を探る」取り組み。これまでに木と毛糸で作る「動物の置物」や「コースター」、廃材でロゴや似顔絵を作るワークショップなどの提案があり、学生と利用者が交流した。

ひらた旭川荘を清心中学生が訪問 利用者とゲームなどを楽しむ

清心中学校の2年生110人が5月11日、ひらた旭川荘を訪問。清掃奉仕のほか、交流会で利用者とゲームやダンスを楽しみました。

同校はノートルダム清心学園の設立母体である修道女会創立者を記念する「聖ジュリーの日」を設けて奉仕活動などに取り組んでおり、毎年生徒がひらた旭川荘を訪れています。

午前中、生徒たちはのぞみ寮、わかば寮、かえで寮、わかくさ学園の4施設に分かれ、施設周辺の草抜きや玄関をほうきで掃くなどの屋外清掃を行いました。

午後は体育館で交流会が行われ、利用者110人も参加しました。生徒たちはそれぞれが手作りした花型メダルを利用者の首にかけ、自己紹介。受け取った利用者はメダルを手に取り嬉しそうな表情を見せていました。緊張がほぐれたのか、その後の「爆弾ゲーム」や「うちわバレー」では利用者と生徒が歓声を上げ、笑い合う姿も。ダンス交流では、生徒が踊る「バブリーダンス」の早い動きを見ながら利用者も懸命に体を動かしていました。

爆弾に見立てたペットボトルを持ち、ゲームを楽しむ生徒と利用者

利用者と生徒が円になり、うちわで風船をパスするうちわバレー

最後に生徒たちが持ち寄ったタオルと雑巾などの生活用品を寄贈。利用者代表があいさつし、和やかな雰囲気の中、閉会しました。

参加した生徒たちは「うちわバレーが楽しかった。笑顔の人がたくさんいることに驚いた」「施設では一人一人に合った対応をしていることがよく分かった」と話してくれました。

えいごde福祉 ～生活表現～ 17

寝る・眠る（2）

「寝る・眠る」の第2回です。眠りの内容、眠り方などに関わる表現を集めました。
眠りの質に関わる表現としては、まず熟睡や寝不足があります。

彼はゆうべよく寝ました　He slept well last night. / He slept deeply last night.
彼はゆうべ寝不足でした　He was short of sleep last night.

一時的な寝不足でなく、病気に伴う（或いは病気としての）
睡眠障害はsleep disorderです。

患者の多くは睡眠障害があります　Many of patients have sleep disorders.

睡眠は夜だけとは限らず、昼寝もあります。昼寝はnapと言うそうです。

彼女はしばしば昼寝をします　She often takes naps.

眠ることに関連して夢に関する表現を最後に取り上げておきます。
普通に夢と言えばdreamですが、悪夢はnightmareです。

彼女はゆうべ悪い夢を見ました　She had a nightmare last night.

（広報委員・総合研究所医療福祉センター主任センター員　後藤祐之）

リレーコラム

絵本とコミュニケーション

「三びきのやぎのがらがらどん」という絵本が子どもの頃に大好きでした。登場するトロルという怪物にドキドキワクワクしながら読んでいたことを思い出します。

みどり学園にやってきてから絵本に触れる機会がとても増えました。子どもたちは絵本が大好きです。イラストでハッとするもの、語感・リズム・テンポがおもしろいもの、ストーリー性が高いものなど好みはさまざま。

読み聞かせをしていると子どもたちと楽しみを共有していることを感じます。大人が気づかないような絵をみつけたり、さりげなく読んだ部分で大笑いしていたり、普段は走り回っている子が真剣な顔で注目していたり。その様子が私も嬉しいのでもっと読んであげたくなります。絵本を通してコミュニケーションをとっていることに気がつきます。

普段はコミュニケーションがとりづらい子どもたちでも、楽しみを分かち合えばお互いに近づいていくことができます。その積み重ねが信頼関係につながり、それが基盤となり子どもたちの成長・発達にもつながっていきます。これは絵本に限ったことではありません。そして子どもだから、利用者だからということもないと思います。

これから先も、まわりの人たちと日々の喜び・気づき・感情を交流させ、自分自身の人間性を深めていきたいと思います。「子どもたち！トロル！たくさんの学びをありがとう！」

（広報委員　川本大輔）

祇園・ひらたで春の清掃奉仕

岡山南ロータリークラブ(RC)の皆さんによる清掃奉仕活動が、5月20日に祇園地区で行われました。23回目となる今年は、同RCの会員企業や旭川荘職員、学生さんを含め約800人が参加。草刈機やトラック、高所作業車も投入されて一斉に作業を行いました。同RCの小川会長は「利用者さんに気持ちよく過ごしてもらえれば嬉しい」と話していました。

祇園地区を清掃する岡山南RCのメンバー

また同日、ひらた旭川荘では中電工と関連企業、岡山マツダの皆さん約50人が旭川荘職員とともに清掃奉仕を実施。「ご安全に」の掛け声のもと、隣接地にせり出した枝を高所作業車で伐採しました。

毎年、皆さんのおかげで季節の美しさを感じることができます。ありがとうございます。

ひらた旭川荘でも高所作業車が活躍

サンエイグループより車いす3台寄贈

サンエイグループより旭川荘へ3台の車いすを寄贈していただきました。いづみ寮、総合在宅支援センター、ひだまり苑の3施設で活用させていただきます。

車いすを受け取る末光理事長(左)

岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町)で4月27日に行われた贈呈式には、末光茂理事長と3施設の代表が出席。末光理事長が同グループの代表より車いすを受け取り、「みなさんの思いのこもった車いすであることを職員、利用者の方々に十分に伝えたいと思います。本当にありがとうございます」とお礼を述べました。

同グループでは、平成18年から各店舗にプルタブ回収箱を設置。集めたプルタブを車いすに換え、福祉施設に贈る活動をしています。旭川荘には今年で11回目、計33台の車いすを寄贈していただいています。

旭川荘写真・作品展

「第32回旭川荘写真・作品展」を6月5日から川崎医科大学附属病院で開催します。「広がる笑顔」をテーマに、施設の日常を写したスナップ写真や、利用者が制作した絵画、陶芸作品など合わせて約50点を展示。手工芸作品や雑貨、焼き菓子など約1,000点を販売します。

日時: 平成30年6月5日(火)～8日(金)
9:00～16:30
※8日は14:30まで

場所: 川崎医科大学附属病院8階大講堂前
(倉敷市松島577)

問い合わせ:
旭川荘写真・作品展実行委員会(竜ノ口寮) 086-275-3216

旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR

6月

1日～8月24日 常設展(夏) …… 旭川荘アートギャラリー
5日 平成30年度第1回理事会 …… 旭川荘
16日 ティーボール交流試合(香川県)… 旭川療育園
22日 平成30年度定時評議員会、友の会総会… 旭川荘
☆ 旅行～各施設

7月

14日 夏まつり …… 南愛媛療育センター
19日 ひらた旭川荘盆踊り大会 …… ひらた旭川荘
26日 第38回夏まつり旭川荘 …… 旭川荘
☆ 旅行・七夕～各施設

編集後記

4月から企画広報室に異動となり、2カ月があっという間に過ぎました。日々、新しいことに戸惑いながらも、たくさんの刺激をいただいています。

取材などでは施設に伺い利用者や職員の方々と出会う機会も増えました。その度にこれまで見てきた世界はほんの一部だったことに気づかされます。もっと視野を広げ考え方を柔軟にすれば、どんなことが見えてくるのかなと思うと、これからがとても楽しみです。

(広報委員　川田明奈)